

*****目次*****

P1	新専任幹事のご挨拶	藤原 雄平
P2	仲間たちの近況報告 (1)	
	1 班	大石 博司
	2 班	畑 寿々子
P3	仲間たちの近況報告 (2)	
	3 班	福家 千津子
	4 班	安井 博司
P4	今号の TOPICS	吉野 久司
	リレー随筆	古荘 光子
P5	写真コーナー (1)	前田 長治
	//	肥塚 眞
	//	大森 美子
P6	写真コーナー (2)	斎藤 ちづみ
P7	樹形ウォッチング	遊上 眞一
P8	絵画コーナー	山下 勝弘
	//	岩城 正大
	俳句コーナー	谷坂 修二

◇自然と文化だより◇

月並みですが一年の経過は早く、もう年末です。「自然と文化だより」も今期3号目です。今号の藤原専任幹事のご挨拶で触れていますように、ここまでは亡き野村さんの敷いた路線上で進めてきました。

今号は私の玉手箱はお休みですが、代わりに写真、絵を沢山掲載することができました。何れも素晴らしい作品で、スペースの関係で小さく収めていますが、出来るだけ拡大表示してご鑑賞下さい。

N.A



新専任幹事のご挨拶

腕に覚えはござりませぬが・・・

調査専任幹事 藤原 雄平

4月の終わり頃だったと思いますが、今は亡き野村さんからメールが入り、主旨は、新専任幹事には「自然と文化だより」に順番に寄稿してもらおう、当番月は12月であるとのことでした。了承はしましたが、12月のことをなんで今から言うてくるのかと思った記憶があります。当時、彼が入院中であつたことは知っていましたが、まさかその1ヵ月後に逝去されるとは夢にも思いませんでした。彼とは高等科の同期生でしたが、最初の思い出は、有馬富士公園での昆虫採集で、狙った蝶を採り逃し悔しい思いをしている時に、後ろから来て逃がした蝶をいとも簡単に捕まえた男が野村さんでした。その時は彼が昆虫少年だったことを知らず、見かけによらず意外と器用な男だと思ったものでした。本題とは関係ない話が長くなって恐縮ですが、この寄稿に際しては、野村さんのメールが遺言のように思え、彼のことに触れないでは前に進めない思いがしています。心よりご冥福をお祈り致します。

さて、全く腕に覚えはありませんが、4月より調査委員会の専任幹事を務めさせていただいております。これまで科に対する貢献もなく、植物に対する知識もなく、なによりも調査



委員会に対するビジョンが無い者に専任幹事は務まらないと、お断りをしましたが、結果的にはこうなっていました。草本だけが調査の対象ではないという言葉も耳にしますが、今年度は従来路線の武田尾の草本調査を、区域を変更して継続しました。特に桜の園内の調査には新鮮味があつたのではと思っております。委員の皆様方のご協力を得て、先輩方が蓄積されてきたデータベースに追加していくことをとりあえずの目標に、「ワイワイ、ガヤガヤ楽しもう！そしてチョッピリ勉強！」をモットーに、委員会運営ができればと思っております。

今年度の研究科研究・活動発表会では調査委員会が発表担当で、「武田尾の草花たち」の報告を予定しています。ご支援よろしくお願い致します。

山歩きしています！

1班 大石 博司

シニア自然大学校に入って3年、自然と文化科は1年目、山歩きは5年目。会社勤務時代から週末ハイキングをしていたので体力は問題なし。最近は少し遠出の山歩きを楽しんでいます。

今年もいくつかの山を歩きましたが、春と秋に2回行った大峰山について感想を。関西では数少ない百名山の一つとして有名ですがアクセスが大変なので六甲などと違い頻繁には行けません。吉野から熊野に至る大峯奥駈道にいろいろな山が連なっていますが、今年は行者還岳と八経ヶ岳です。山頂に立った達成感はその山でも同じですが、果てしなく続く山々を見て「日本は山国だな」ということを実感します。春は満開のシロヤシオと少し混じるアケボノツツジを存分に味わえました。オオヤマレンゲはまだ咲かずで残念。シャクナゲは残っていました。あとヤマシャクヤクが見られました。バイケイソウの群落は数を増しているようです。秋は紅葉が終わっていたようでそれほど



シロヤシオ



ヤマシャクヤク

楽しめずで、コゲラを目と鼻の先で観察。しかしながら最も印象に残るのは弥山に見られるシラビソの枯れ木です。伊勢湾台風で始まった枯れ木の群れはシカの食害により稚樹が育たず進む一方とのこと。オオカミの復活も極論とは言えないような気が。となりの大台ヶ原よりはましだそうです。が、残念な風景です。芸術的という人もいますが・・



コゲラ

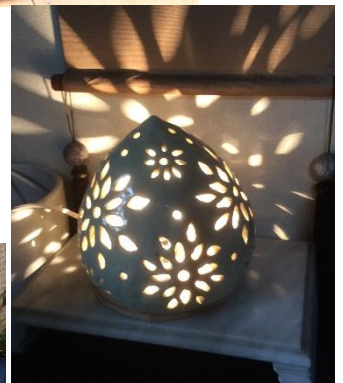
山歩きはこれからも続けることになると思います。来年はさらに遠出をして信州などの山を歩いてみようかと。ほとんどの山が未経験なので行くところはいくらでもあります。幸いなことに・・雨が降った時の経験もあまりなく、初心者にも毛の生えた程度ですが、これからも楽しんでいきます。

私の趣味 陶芸

2班 畑 寿々子

今は月二回、高校の美術教室の陶芸に通っています。今までにも2回ほど挫折しながらトータル3年間くらい土を触って楽しんでいます。今回は、母が亡くなってから初心者の妹と始めました。陶芸もさることながら、妹との交流が母を亡くした今、心を和ませてくれ癒してくれます。そして初心者の妹との優位性も心地よいものです。しかし器用な妹にはすぐに追いつかれそうな気もしています。

最初の難関の菊練りは、ここでは機械で終わっているのですが、腕のトレーニングにはならないので振袖？は、残念ですが解消しません。今まで3人の先生の指導を受けていると、色々な技法が学べてお得な面白いことも多々あります。最初の先生は手び練りの大好きな方で、花瓶とか湯呑、ぐい飲みをたくさん作りました。2回目の先生は、電動ロクロが大好きで、コーヒーカップや、お湯呑みなどを多く作りました。3回目の先生は美術の先生で、いかにもアートな作品の指導が多く面白い作品が出来ています。作品は自分で毎日使って、ふふふって感じですが、やっぱり見てもらいたい気持ちが一杯なので、あれやこれや書いてるより、拙い作品ですが宜しければ写真で見てください。



山歩き

3班 福家 千津子

ポトポトと足元に落ちる汗。周りの声も気にならなくなって、ひと吹き風の風に足を休める。ひたすら黙々と足を進めていると、意味のないことが浮かんで消える。

声をかけられた。休憩だ。チョコが回ってくる。「おいしい」流した汗を取り戻してくれそう。

やがて視界が広がり尾根に出る。やっぱり稜線歩きは好い。前方に岩峰が見える。あの上に立つと思うと引き締まる。照りつける陽、吹き上がる風が砂礫を目・口に運ぶ。かなりキツイ風だ。

やっと岩峰に着く。その壁はなかなかのもの。最後の垂直岩。ロープ・ハーネス、何もない。ポカンと見上げる。こんなこともあるさと、息を止める程の岩間を戻る。(10月山行)

山の緊張と楽しさを味わうひとときが私は好き。しかし、極度の緊張は心が震える。大雨で一夜の小屋待機したとき。天気回復と同時に出発。ゴウゴウとした流れを幾度も渡渉。太竿に渾身の力を込め一步を踏み出す。足が流れる。体が浮く。歯を食いしばる。着地ができない。その様子を先にいった仲間の目が、冷静に見ているのが解る。

「焦るな」何度言ったことか。足先が痺れてくる。冷たい水だ。なんと時間のかかる一歩か。少し流れが緩む。足元が安定し始めた。もう少しだ。岸に着いたとき、大きな溜息をひとつ。(8月山行)

よく晴れた梅雨明け後の山。雪解けと同時に咲き始める花たち。そこは植物の世界だ。人は「お邪魔虫」。そっと見て通る。行けども行けども広がる花畑に、思わずスマホ撮り。歌いたい気分を、背中をつついて伝える。「同感」と返る。花に言葉があるなら、話したい。「とっても可愛いくて、綺麗」だと。その造形は、人の考えの及ばない・神の創造したものか。神秘的なその姿に、何度も首を横に振る。ただ受け止めるのみ。あッ誰かが足を踏み入れた。カメラに夢中。靴の下で若い芽がつぶれた。やはり人間は「お邪魔虫」だ。(7月山行)

私はこうして、四季を通じて山に向かう。これからは雪の山。新雪を踏む音がたまらない。人の体と心を養う「山」よ! 「雪」よ! ありがとう!

佐渡島を訪ねて

4班 安井 博司

今年の5月17日～19日、佐渡島の自然と歴史を訪ねる旅をした。昨年開通した北陸新幹線と、同じく昨年から就航した高速フェリーを利用して、楽に、早く島に渡ることができた。

島の北端に近い大野亀には、ニッコウキスゲによく似たトビシマカンゾウ(ユリ科ワスレグサ属

Hemerocallis middendorffii var. *exaltata*)の大群落がある。花は5月下旬から6月上旬が見頃とされ、満開には少し早かったが、丘の上から断崖に続く緑の中に、鮮やかな黄色の花が一面に咲く様子は絶景であった。因みにトビシマカンゾウは、その名の由来である山形県酒田市の北西にある飛島と、佐渡島にのみ分布しているそうである。



佐渡島へ行きたいと思った一番の理由は、映像や剥製でしか見たことのなかったトキの、生きている姿を見たいと思ったからである。

トキはペリカン目トキ科の鳥で、学名も有名な *Nipponia nippon* である。かつては日本各地で見られたが、明治以降その数が激減し、1952年に特別天然記念物に指定された。2003年に日本の野生トキ最後の「キン」が死亡し、野生絶滅となった。

しかし1999年に中国から贈られたつがいから人工繁殖のヒナが誕生し、以後順調に人工飼育数が増加した。2008年からは放鳥も行われ、現在では約210羽と推定される野生のトキが、佐渡島を主な生息地として生活している。移動中のバスの中からも、トキがいないかと探したが、残念ながら、トキの森公園内の大型ケージに飼われているトキしか見ることができなかった。

この秋、自然と文化科で訪れた豊岡では、コウノトリが自由に空を舞う姿を見て、とても感動した。

近い将来、トキが自由に空を舞う姿をぜひ見たいと願っている。



万博NR奮闘記

2班 吉野 久司

開会式後、すぐさま設営に取り掛かり「てんとう虫」と「クリスマスツリー」班に分かれ作業準備に追われる中、開始前に来客が並び始めました。その後終了まで客足は途切れることなく、スタッフ一同休みなく対応に追われた一日でした。昨年度より工作材料はかなり多めに準備したはずでしたが、来客が536名(内子供300名)もあり、ツリーは用意した台座付マツボックリ250個が出払った後、台座なしでのマツボックリでなんとか対応、待ち時間も出るほど盛況でした。



子供達やお母さん方には十分満足してもらった様子で「本当に無料でいいの?」とか「来年もまた来ようね」と大事に作品を持ち帰られました。

電動車椅子での来客者もあり、シートに座ってもらえないので、急遽受付の机を作業台にして無事ツリーを完成してもらいました。

昨年度の経験を生かし、当日スタッフは延べ43名と増員募集しました。このため多数の来客にもスムーズに対応でき、交代で昼食も摂ることが出来ました。また事前に万博公園や服部緑地の野外で蚊取り線香を焚きながら、工作同好会の方々の協力を得て、てんとう虫の下準備や材料集めもしました。科員の皆さんからはナンキンハゼ、ヤシャブシ、メタセコイア、ナンテン、ユーカリなどツリー材料をいろいろ提供頂きました。すべて科を挙げての万博NRへの協力のたまものです。

なにかと心配り頂いた統括リーダーと工作同好会代表の両Nさん、本当にお世話様でした。

閉会后、万博公園からのシニアとエキスポシティから駅に向かう人混みの中、来年の為に「白くて大きなナンキンハゼの実」をもっと集めておかなくては・・・と、つい考えてしまうのでした。



シャル ウィ ダンス!!

1班 古荘 光子

夫から「シャルウィダンス」見に行こう!!と映画に誘われた頃、それ程激しくないが運動になるし、年をとってもやれるかなあ、音楽もいいし・・・と思って社交ダンスを始めた。いやいや、結構きつい動きであった。モダン:ワルツ・タンゴ・スロー・クイック・ウイナーワルツ、ラテン:ルンバ・チャチャ・サンバ・パソドブレ・ジャイブの10種ダンスを目指している。

ダンスの効能を考えた。

①全身運動 準備運動は先日習ったスロートレーニングに通じる。肩甲骨、腕の内転筋など平素



使わない関節を回す。お腹をひっこめる。人間が動物であった時のように前足(腕)を動かす。重心を浮かせる。丁度操り人形のように、頭を上から釣り上げている感じ。自分でバランスをとって自分自身で立つ。筋肉も付く。

②コミュニケーション 社交ダンスでは男性はリーダーという。ステップ名も男性から見てつけられている。右まわりは男性から見て右。女性はフォローの立場。しかし、「男性のリードがあるので女性は何もしなくてよいというのは嘘。女性の役割を果たさなければダンスにならない。前から力がくるので力を抜くとリーダーに女性の重みがかかってしまう。女性は女性の仕事をしろ」女先生がいつも言うことば。踊る人と見る人で体の動きの勘違いがある。どちらが上でなく、「リード&フォロー」お互いを感じあうことが大切。

③脳トレによい 男女体の動かし方は同じだけれど男性は大変。ルーティーンを考え、少し早い目に相手に伝える。場面对応も必要。男性役をしてみても、これは脳に良いと思った。なかなか覚えられない。男性にそして、夫に感謝。

④いつまでも若々しく 男先生は羽生結弦君似の好青年。ウキウキする。そして、パーティーの時は化粧や衣装で大変身できて楽しい。

皆さんも始めませんか。レッツ ダンス!!



涸沢カール

1 班 前田 長治



撮影日：2016 年 9 月 10 日

撮影場所：前穂高山頂

左側：穂高岳山荘 涸沢岳 中央：槍ヶ岳

右側の小屋：涸沢小屋 涸沢ヒュッテ

ミョウガの実

1 班 肥塚 眞



一定の湿度と温度が約3ヶ月程保たれる場合に出来ることがあると言われている。

通常は地下茎から芽を出して子孫を殖やすが、稀に種子(写真の白い部分)を作り子孫を残す。

1 班 大森 美子

※隠岐の島の「ろうそく岩」です。

島より写したものは意外と撮り易く、日の入りは船の上で撮影したものです。

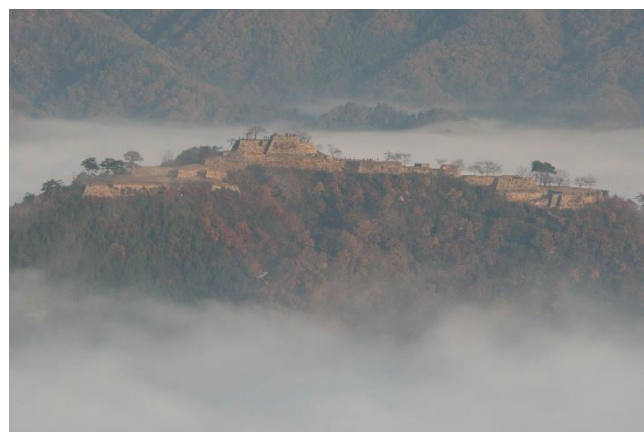
船が揺れるのと刻一刻と日が沈むのでとても苦労いたしました。



※兵庫県の竹田城址です。

季節、気象条件により雲海が見えます。

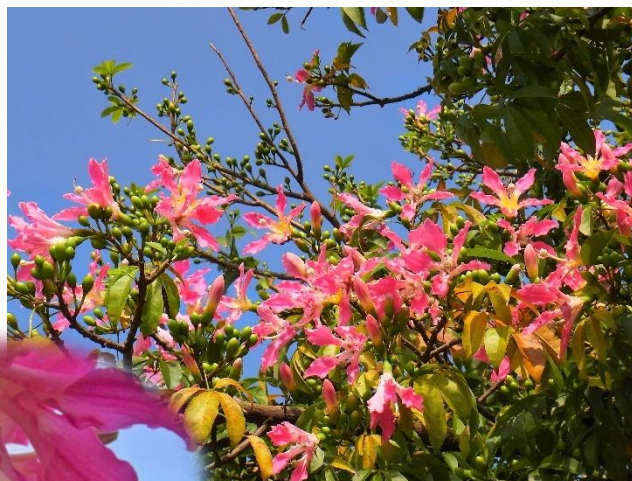
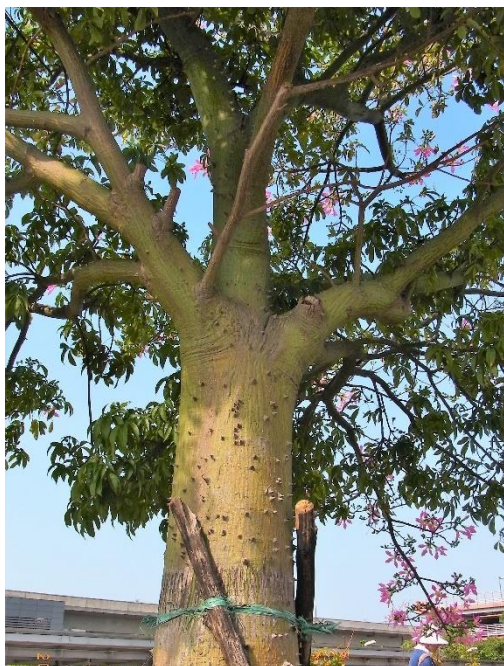
日の出前にヘッドライトを照らし向かいの山に登り撮ったものです。



台湾旅行で見た樹木の花

1 班 斎藤 ちづみ

(11 月 7 日～11 日)

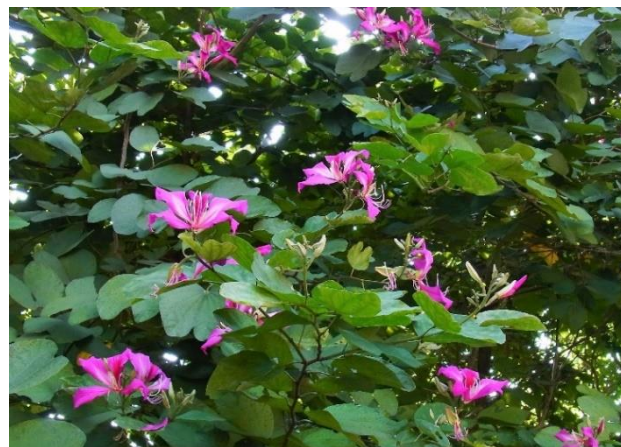


鮮やかな花を沢山付けていた

美人樹（木札に書かれていた）樹皮に刺がある 美しいものには刺があると言われるますが



台湾モクゲンジ 台北の街路樹はこの果皮がピンクの花が咲いたように美しかった



羊蹄木（ヨウテイボク）

台湾現地のガイドはヨウテイコウ（羊蹄爪）と説明
葉が羊のヒズメに似ることによる

日本一の巨樹 蒲生の大クス

3班 遊上 眞一

鹿児島県始良市蒲生の八幡神社にあるご神木のクスノキ。樹齢1500年、高さ30m、幹周24m。
平成26年5月開聞岳へ登り、次に登る高千穂峰に行く道中にあった為、拝見できました。



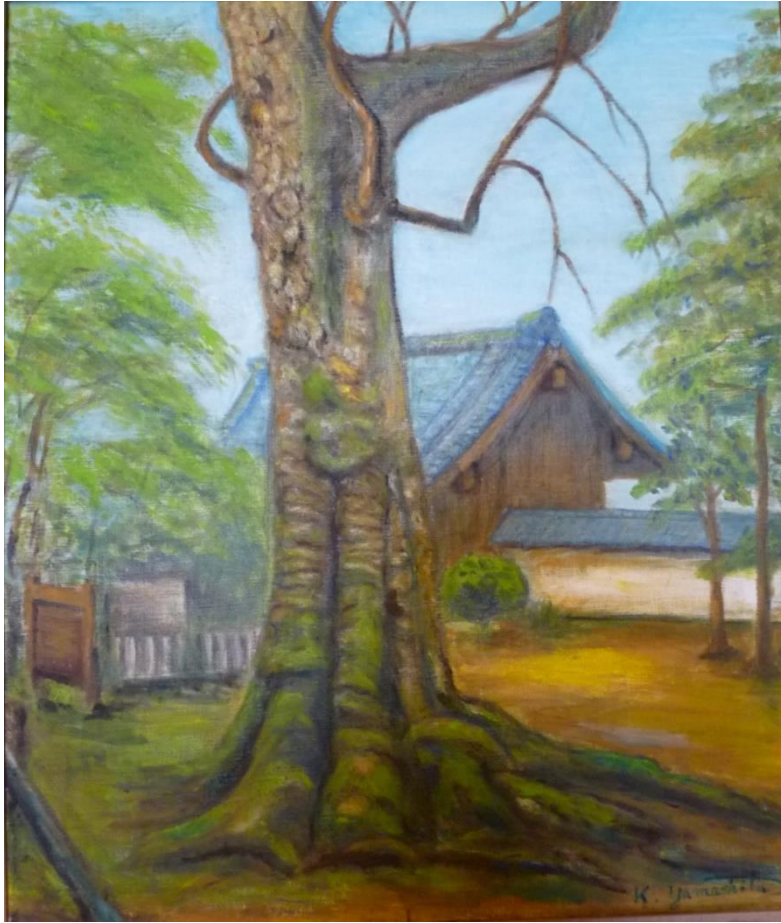
幹には、いろんな植物が着生しています



洞には扉があり、中は8畳の広さです

古木ムクロジ（多田神社）

1班 山下 勝弘



俳句・川柳

3班 谷坂 修二

プールサイト

水練で楽に渡るか三途川

水中眼鏡磨き直して先が見え

背泳ぎの手ゆったり空に伸びにけり

夏の思い出

夏登山スイカの味を忘れず

登山道雷鳥一羽道ふさぎ

長き夜ご来光の夢また行こう

柿

3班 岩城 正大



自然と文化だより
皆様のご協力により31号が発
行出来ました。有難うございま
した。（広報委員会）